

題目：インターネット上での顔写真公開の意味—SNS 利用に関する日中比較研究

名前：井上惇志

指導教官：結城雅樹

本研究では、Facebook や mixi などのソーシャルネットワーキングサービス (以下 SNS) と呼ばれる web サイト上で自分の顔写真を掲載するかどうかには文化差が存在することを示し、その文化差を社会生態学的アプローチの立場から関係流動性を用いて説明することを試みる。

関係流動性とは、ある社会、または社会状況に存在する、必要に応じて新しい対人関係を形成できる機会の多さを指す社会生態学的環境変数である (Yuki, Schug, Horikawa, Takemura, Sato, Yokota & Kamaya, 2007)。関係流動性に関する従来の研究は、主に日米両国間で比較を行ってきたが、これまで日中両国間の比較をした研究は存在しない。しかし、高橋(2008)などによって中国人の方が日本人よりも一般的信頼が高いことが示されており、また、結城ら(2007)によって日米の一般的信頼の文化差が関係流動性によって説明されることが示されている。これらの先行研究から、一般的信頼の高い中国ではアメリカ同様に関係流動性が高いことが演繹的に予測される。以上の議論から、本研究では日本を低関係流動性社会、中国を高関係流動性社会と位置づけ、以下の仮説をたてた。

関係流動性社会の高い中国では機会コストが高く、利益を最大化するためには積極的に対人関係を拡張していくことが適応的となる。このような社会において、SNS 上で関係拡張をしようとする場合、顔写真を公開することで好意度や信用が得られ関係形成が促進されるなど、顔写真公開のベネフィットが大きいいため、顔写真を積極的に公開すると考えられる。

一方関係流動性の低い日本では機会コストが低く、関係拡張のために SNS 上で顔写真を公開するベネフィットは低い。むしろ写真を悪用されるリスクなどのコストの方が高いため、顔写真を掲載しないと考えられる。

以上の仮説を検証するため、日中で質問紙調査を行った。その結果、中国人は日本人よりも積極的に SNS 上に写真を掲載し、また関係流動性は日本より中国で有意傾向に高いことが示された。また、写真を掲載するかどうかは個人の関係拡張志向によって媒介され、個人の関係拡張志向に対する関係流動性の媒介効果も有意傾向であった。よって、SNS 上で顔写真を掲載するかどうかは、関係流動性の違いによる関係拡張戦略の差によることが示唆された。